

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市御井町 2011番地 (電話) 0942-45-0967		
自己評価作成日	平成 28 年 5 月 25 日	評価結果確定日	平成 28 年 8 月 5 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- \* 利用者27名全員での外出が出来ていない分、各階ごとに利用者の希望に応じた外出支援に取り組むことができています。
- \* 利用者の一人ひとりの能力を活かせるよう家事や掲示物の作成を職員と一緒に取り組み、毎日が張り合いや楽しみを持って暮らせるよう支援している。
- \* 利用者の支援に関する書類を個人別・年度別にまとめ、職員が必要時に利用でき、アセスメント等に取り組みやすい環境を整えた。その個人別ファイルの活用を定着することで今後の職員の人材育成に繋げることを目標にしている。
- \* ほとんどの家族から最期は施設での看取りを希望され、主治医と連携して24時間体制で取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 6 月 24 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

文教地区の閑静な住宅街に位置し、近郊の風景を見渡せる丘陵地に建つ3階建ての3ユニットの事業所である。苑内はゆとりある広さが確保され、床はクッションシートになっており明るい環境にある。それぞれに寛いでいる利用者の穏やかな顔は、職員と利用者が一体となった家族を思わせる雰囲気である。月1回担当職員から、利用者の現況を手紙で知らせている。その便りは家族にとって、利用者の体調変化や生活状況を知ることができ喜ばれている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和し、職員全員が熟知している。又、問題にぶつかったときには「理念」に戻り、実践につなげている。	理念の実践に向けて、ミーティングや会議で意識的に取り組んでいる。管理者・職員は毎朝礼時唱和し、理念を具体化していく事を意識して、利用者に関わっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、地域行事の一斉清掃や資源ごみ当番にも地域の一員として参加しており定期的に行っている運営推進会議には自治会長・老人クラブ会長・民生委員・社協の支援員の方々に参加して頂いている。地域の実情や事業所の近況報告を行うことで情報交換ができ、交流につながっている。	自治会に加入し、イベント案内などは「生き生き便り」に地域版として回覧している。地域での清掃活動・敬老会・さぎっちょに参加、夏祭り子供神輿では途中休憩時、事業所駐車場で、お茶してもらっている。年末恒例の餅つき大会でつく餅を近所に配っている。お礼にとイチゴや漬物をいただいたり、地域住民との相互関係がつけられている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前、地域の高齢者の集まり「いきいきサロン」に参加して施設で行なっている体操なども披露したりと少しでも地域の中に溶け込むよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており事故やヒヤリハットの報告や外出行事などのレクへの取り組み状況も報告を行っている。介護保険課と包括センターの職員も参加されており、市内のイベントの情報や高齢者事故の発生事例等、紹介して頂くので支援の向上に参考になっている。	運営推進会議を2か月に一度、開催している。事業所から利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、委員から意見・要望・質問等をもらっている。委員より一人暮らしの高齢者の様子や「高齢者のたまり場があったらいいが市から補助もらえるか」などの意見がでる。報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課と包括センターの職員他に地域の代表者として自治会長・老人クラブ会長・民生委員・社協の支援員の方々にも参加して頂き事業所の実情を細かく報告し指導を受けたりまた、協力をお願いしている。	日頃から行政窓口で、運営に対する報告や問題があれば相談し、ポイントなど指導してもらい、情報を共有しながら、協力関係を築き連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは前提としているが玄関前に急な坂があり、やむを得ず、玄関は施錠している。その自由がない分、レクを可能な限り提供し自由な暮らしを提供できるように努めており他の場面でも身体拘束にならないかをその都度、話し合いながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	立地条件でやむを得ず玄関を施錠しているが、家族に説明を行い、同意をもらっている。2階に広いウッドデッキがあり、利用者は自由に出入りしている。言葉による抑制がなかったか等も含めて、職員同士声掛け身守り強化に努めている	立地関係による玄関の施錠があたりまえにならないように、安全面を配慮しつつ、少しの時間でも施錠しない時間を設けることができるようなケアの工夫等の検討を継続して欲しい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を行うと同時に職員同士で声をかけ合い、疑いの時点で解決するよう、虐待防止に取り組んでいる。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所契約時に家族へ資料を渡し制度の説明をしている。また職員は勉強会の機会があれば呼びかけをし参加している。現在、日常生活自立支援を利用している方がいる為、身近で仕組みを勉強することができている。	制度に関して利用者・家族などに、契約時に説明情報を提供している。全職員はテキスト・パンフレットを持ち、内部で2回に分け、ビデオも活用しながら研修を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては事業所側の一方的な説明だけではなく、疑問や不安な点を尋ね安心して頂けるよう説明している。また改定等が発生した場合は文書で各ご家族へ配布してご理解して頂き、同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはできる限り談話の時間を設け、疑問点や要望等がないか尋ねて些細なことでも職員全員で共有している。又、玄関入口に意見箱を設置し、利用者、家族、職員誰でもが利用できるようにしている。	本人の願いや希望は日常会話の中から拾い上げ、「夕食時にビールを飲みたい」など、可能な限り実現へ向け取り組んでいる。家族には運営推進会議時や、家族面会の際に積極的な声掛けに努めている。また毎月、担当職員から現況報告の手紙を送付することで、意見や思いの表出に努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の関係が良好で意見や提案は話すことができる。月1回開催しているカンファレンス会議やフロア長会議で職員誰もが自由に意見、要望事項を出せる機会を設け、今後に反映させている。	管理者は月1回、フロア一長会議やカンファレンス会議で、職員の意見やアイデアを聴く機会を設け運営に取り入れている。またいつでも管理者に、職員が意見を言いやすい環境にある。床もクッション性のあるシートに張り替え、厨房も使いやすいようリフォームし、意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修情報等を回覧し、参加希望者には勤務の配慮を行い応援している。資格取得者又は自己評価に基づき、職能手当として給与面に反映されている。職員は常に向上心を失わないような環境整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	60歳までの入職希望は正職員で採用し、それ以上の方でもやる気と利用者思いの心があれば常勤として採用している。職員には持っている力量を十分に発揮できる様、役割を持ち勤務できる様配慮している。	職員採用には、本人の意欲、介護への熱意、人間性を重視している。教育・定年・退職などにおいても、個々の能力を発揮して生き生きと勤務できるような職場環境にある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、事業所で全員参加の勉強会を行っている。その中で利用者のプライバシー保護に関する内容にも取り組んだ。又、利用者・職員の人権を尊重するには誰にでも平等に接することの大切さを話している。	毎月全職員が参加できるよう前半・後半に分け勉強会を行っている。「尊厳のある生き方・人間らしい生き方・高齢者の生き方」など、利用者・職員の人権を尊重するには誰にでも平等に接することの大切さを学んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望者のみの参加になるが事業所が行っている、毎月全員参加の研修会と個別研修としてわかりやすい資料に基づき、職員全員が回しで学んでいる。その資料も後で見直せるよう各階に設置している。事業所推薦の研修は受講料や交通費の補助もある。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部の職員になるがグループホーム部会や包括主催の地域密着事業所との意見交換会等に参加し、他事業所の意見を参考にし、当事業所の向上に反映している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何を望んでいるかを本人・家族に確認し、その必要とする関係機関と連携し、早めに解決をすることで安心してもらえるよう取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にできるだけ話し合いの時間を設け、家族が不安と感じる点や要望を伺い、事業所のできることで、できないことをはっきり伝え、よい関係を作っていくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人と家族から希望を尋ね、必要とされる関係機関と話し合いを重ね本人に必要なサービスの対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの得意な作業等を提供し役割を持って生き生きと生活できる様支援している。又、職員も昔ながらの知恵を利用者から学んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の近況を手紙でお知らせしたり家族へ利用者の伝えたいことをわかりやすく代弁している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されてからも馴染みの理美容室への散髪や以前飼っていた犬に会いに行きたいとの希望があり、職員が日程を調整して送迎している。	本人が馴染みにしていた理容室や、自宅のペットに会いに行く、お墓参り、自分の生まれ育った場所へ行く等、積極的に外出支援をしている。また家族に同意をもらい、帰宅支援や、利用者が大切にしている人や場所など、これまでの関係を継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自力で行動ができる利用者ができない利用者に対して思いやりのある声かけをしたり、家族より差し入れがあれば、他の利用者にも分けて一緒に菓子類を楽しまれるなど、お互いが支え合えるような支援に取り組んでいる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退所された後も、本人に何か変化があれば、連絡を頂ける関係作りが出来る。その内容次第では職員が先方へ出向くよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がどのように暮らしたいのか、好きなことは何か等、普段の会話から探り出している。	職員は日々の生活の中で、利用者が話した内容などは、連絡帳に記録しておく。「外食で寿司食べたい」「ウナギ食べたい」「レクレーションの日」など思いや希望、意向の把握に努め、職員間で情報を共有し、可能な限り実現できるよう検討している。意思疎通が困難な場合は本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの暮らしの内容や生活歴等、知りえた事をその時の生活環境に近づける様支援している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を基にその人らしい過ごし方ができるように支援し、毎日のバイタルチェックで身体の変化を把握し、利用者一人ひとりの生活リズムが作れるよう取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは本人・家族の希望を受け止め、職員や関係者と話し合いを重ねその結果をもとに3ヶ月毎に介護計画書を作成している。そのためには毎日の細やかな観察と記録が必要である。それを職員で取り組んでいる。	毎月担当者が見直しを行い、会議の時に一人ひとりに対する意見をプランに反映させ、個別の計画を作成している。3ヶ月1回のペースで、利用者の状態変化があれば内容を検討し、作成を見直している。面会時や郵送で介護計画を了承してもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に日々の様子や気付いたことやケアの実践後の利用者の様子を細かく記入し、職員間で情報の把握に生かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて本人・家族・関係機関の希望でグループホーム以外のサービスを自費にはなるが利用されている。毎日を生き生きと過ごすためには潤いや楽しみを持ち、本人・家族が安心して暮らせる支援ができる様取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前の行きつけの理美容室等を希望される方や買い物や思い出の場所へも職員同行で支援している。季節ごとの地域の行事に参加したり、地域の方によるボランティアもお願いして楽しむことができる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医の希望については施設看護師同行で支援している。施設でも連携医による4週間毎の定期往診を実施し、歯科・皮膚科は訪問を利用し、眼科・耳鼻科など他は必要時に受診の支援をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医（通院・定期往診）への受診を支援している。また家族などと受診時の通院介助の方法や伝達方法についても話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、体調不良の変化時は施設看護師に報告・相談し、指示を受け適切な対応が受けられるよう支援している。受診状況の結果は職員で共有し、健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には安心して治療ができるように面会を心がけ情報交換や相談の機会を設け、受入れ体制を整え、早期退院に向けて支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化・終末期ケア対応事前指 定書をもとに説明し、状態の段階ごとに家族と話し合い、施設が対応し得る最大の支援内容を説明、確認しながら医師と連携を図り、職員共に方針を共有し支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を明文化している。利用者の状態が変化したとき、事業者が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り、利用者・家族が、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講してAEDの使い方や心肺蘇生法を学び又、緊急時のマニュアルを作成し、対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に火災時の昼夜想定で避難誘導訓練を行っている。地域にも声かけ近隣の参加で消火訓練も同時に行っている。今後は火災時だけではなく、地震や水害時の避難訓練も消防署の指導を受けながら取り組みたい。	消防署の協力を得て、年2回その内1回は夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練時は近所の人にも呼びかけ参加を得ている。その後に施設の中を見てもらうなど交流している。事業所1階倉庫に誰もが分かるよう「災害時備品置き場」と大きな字で表示し、3日分を目途に備蓄している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を念頭において相手に不快感を与えない対応で人格を尊重し敬意を持って接している。	利用者の誇りやプライバシーに配慮した声掛けや対応を行っており、職員同士で気づきがあれば連絡帳へ記入し、工夫を共有してミーティングで意識の向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとした時間の中で日常会話を楽しみながら利用者が答えやすいように問いかけの仕方を工夫している。自己決定を言葉で表せない方は表情や仕草から受け止めるよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も食事の時間も強制せず、利用者の希望される時間に合わせて支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示が十分でない方は家族にお願いして本人が好まれる洋服を準備してもらっている。髪形や洋服等はこだわりが継続できる様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は男女問わず、楽しみにしていることでその楽しみを味わうために定期的にレクを兼ね、お菓子作りやなべ料理を計画して利用者にも作業過程の役割を分担している。又、外食を計画し、メニューは本人が選んで少し贅沢もしている。	利用者と一緒に下膳や食器洗い、拭き上げを行い、職員と同じテーブルで食べている。日常の関わりの中で嗜好を把握し献立に反映したり、個別に合った形態で提供している。誤嚥に気づきやすいよう音楽を流さない配慮をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はその都度、チェックシートに記入することで1日の摂取量を把握している。水分量が摂れない時はこまめの声かけや好みの飲み物を準備している。栄養面では主治医に相談し、栄養補助食品で補い、バランスが取れるよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方以外は毎食後、本人の状態に合わせて口腔ケアの介助を行っている。それでもケアが不十分な方は訪問歯科の口腔ケア指導も利用して清潔を保つよう取り組んでいる。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートを利用し、一人ひとりの排泄のリズムを把握し、表情や言動などサインを見逃さない様に、トイレ誘導に取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりのサインを把握しさり気なく支援している。尿意のない利用者には排泄チェック表を利用し時間を見計らって誘導している。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として腸を動かすために歩く運動や水分の摂取に取り組む、なるべく薬を使わずに排泄できる様支援している。食事や運動でコントロールが出来ない時は主治医に相談している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	できる限り利用者希望を尊重し、その日の体調を考慮した上で清潔保持・楽しみの両面から支援している。介助者の同性、異性の好みにも配慮し、会話も楽しみながら一人ひとりに応じた入浴を支援している。	毎日入浴可能で準備している。利用者の希望などに合わせて柔軟に対応し、シャンプーなどは本人の好みで入浴を楽しんでもらい、入浴拒否の人には「明日出かけるから入りましょう」「体重図りしましょう」など声掛けの工夫をし、臨機応変にそれぞれのタイミングや意向、希望に応じて入浴できるよう、また無理強いはしないで、次の入浴につなげている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムやその日の体調に合わせた就寝支援やその人の入眠前の習慣も尊重している。疲れやすい利用者は日中でも時々、ベッドで休んでもらい、足のむくみを取る工夫をしている。体操や外気浴などで体を動かし、寝具類は洗濯をこまめに行い、心身ともに気持ちよく安眠できる様、支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐために利用者に手渡す時は二人の職員で名前・日付を確認し、又、飲み込まれるまでの確認を行っている。日常の服薬で状態の変化等があれば、主治医や調剤薬局に情報提供して今後の治療や服薬調整に生かしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの方が家事全般は経験されているので声かけしながら職員と一緒に作業をしていくことで自分の役割として張り合いを持つことができている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出の計画を立て安全第一に外出支援に取り組んでいる。天気の良い日は当施設の周辺を散歩して近所の方と立ち話で和み、親交を深めている。又、一人ひとりの希望に応じた支援にも取り組んでいる。	天候により個別に散歩に出かけている。本人の希望を把握し、ドライブは月1回30分位の範囲で戸外に出かけられるよう支援に努めている。買い物があれば、内容に合わせて店を選び利用者の希望に応じた外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金の所持を希望される方には家族の了解のもと、財布の中に少額入れ本人に渡している。外出時は一人ひとりお金を用意し、本人が好まれるものを手に取り選んで購入されている。家族には事前に了解をもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いたり、利用者から電話をかけたいと希望された時など、施設の電話からかけ、ゆっくり話ができている。又、暑中見舞いや年賀状に利用者の自筆で一言書いて家族に届けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は迷うことがない様に大きな字でわかりやすく表示している。フロアの壁には季節を感じられるものを利用者と一緒に手作りし掲示している。居室は本人の好みの掲示物や置物を飾り、自分らしい空間にできる様、お手伝いしている。玄関には利用者が生けた花を飾っている。	共有空間は南側に広い窓があり、明るく清潔で整理整頓され、季節に合わせた飾りつけや作品を掲示している。2階に設置された広いウッドデッキから自然が楽しめ、周りには琵琶やグミ、かんきつ類など果物を植樹し、さくらや季節の花々が利用者を楽しませている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアより離れた場所に一人掛けの椅子を設置し、ホッとひと息、一人の時間を大事にできる。当施設から隣接する高校や大学の校舎が見え、時には学生たちの元気な声を聞くことができる。2階にはウッドデッキも設置されていて周りの木々や草花を眺める事ができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人・家族に部屋の広さを確認して頂き、本人の馴染みの物や使い慣れた物を持ち込まれ、環境の変化を少しでも小さくし混乱を防ぐよう工夫している。	居室は利用者の状態により畳を使用することもできる。居室入り口には自宅で使っていた表札があったり、自宅で使い馴染んだタンスやラジオ、テレビ、大切にしていた三味線を持ち込んでいる。家族が面会時に、季節ごとに写真の張り替えをしたり、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を防ぐために廊下には障害物は置かず、バリアフリーになっている。利用者の他階への移動はエレベーターを利用しているが廊下には手すりを設置しているので歩行リハビリ等に利用している。又、できることの生活リハビリとして食器拭きや洗濯物たたみ等を支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域とのふれあいを深め・・・」という文言を入れており、毎朝、朝礼時に出勤者全員で唱和することで意識の共有を高め、地域行事等に参加するよう取り組み、実践に役立てている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、地域行事の一斉清掃や資源ごみ当番にも地域の一員として参加しており定期的に行っている運営推進会議には自治会長・老人クラブ会長・民生委員・社協の支援員の方々に参加して頂いている。地域の実情や事業所の近況報告を行うことで情報交換ができ、交流につながっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域行事への参加依頼がある時は可能な限り参加するように努めている。また施設で行なっている体操なども披露したりと少しでも地域の中に溶け込むよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており事故やヒヤリハットの報告や外出行事などのレクへの取り組み状況も報告を行なっている。介護保険課と包括センターの職員も参加されており、市内のイベントの情報や高齢者事故の発生事例等、紹介して頂くので支援の向上に参考にしている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課と包括センターの職員他に地域の代表者として自治会長・老人クラブ会長・民生委員・社協の支援員の方々にも参加して頂き事業所の実情を細かく報告し指導を受けたりまた、協力もお願いしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは前提としているが玄関前に急な坂があり、やむを得ず、玄関は施錠している。その自由がない分、レクを可能な限り提供し自由な暮らしを提供できるように努めており他の場面でも身体拘束にならないかをその都度、話し合いながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の暴言・暴力に対して疑わしい事があればその都度注意をし、また責任者に報告し明確にした後、職員全員に周知し、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所契約時に家族へ資料を渡し制度の説明をしている。また職員は勉強会の機会があれば呼びかけをし参加している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては事業所側の一方的な説明だけではなく、疑問や不安な点を尋ね安心して頂けるよう説明している。また改定等が発生した場合は文書で各ご家族へ配布してご理解して頂き、同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時にはできる限り談話の時間を設け、疑問点や要望等がないか尋ねて些細なことでも職員全員で共有している。又、玄関入口に意見箱を設置し、利用者、家族、職員誰もが利用できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催しているカンファレンス会議やフロア長会議で職員誰もが自由に意見、要望事項を出せる機会を設け、今後に反映させている。又、それ以外いつでも職員の話聞き入れより良い方向へ定着するよう努めている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修情報等を回覧し、参加希望者には勤務の配慮を行い応援している。資格取得者には給料面にも反映し、常に向上心を失わないような環境整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別を理由に不採用することなく、現在は10年以上在籍している者が多い。その年代だからこそこできる対応や役割を十分に生かして利用者に安心感や笑顔を与えられるよう日々のケアに取り組んでいる。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月、事業所で全員参加の勉強会を行っている。その中で利用者のプライバシー保護に関する内容にも取り組んだ。又、外部研修でその機会があれば、職員全員に回覧し参加を呼び掛けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望者のみの参加になるが事業所が行っている毎月、全員参加の研修会と個別研修としてわかりやすい資料に基づき、職員全員が回して学んでいる。その資料も後で見直せるよう各階に設置している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や包括主催の地域密着事業所との意見交換会等に参加し、他事業所の意見を参考にし、当事業所の向上に反映している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が何を望んでいるかを確認し、その必要とする関係機関と連携し、早めの解決をすることで安心してもらえるよう取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にできるだけ話し合いの時間を設け、家族が不安と感じる点や要望を伺い、事業所のできることで、できないことをはっきり伝え、よい関係を作っていくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で本人と家族から希望を尋ね、必要とされる関係機関と話し合いを重ね本人に必要なサービスの対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの得意な作業等を提供し役割を持って生き生きと生活できる様支援している。又、職員も昔ながらの知恵を利用者から学んでいる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の近況を手紙でお知らせしたり家族へ利用者の伝えたいことをわかりやすく代弁している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に利用者本人の思い出の場所への外出支援や親しい知人との面会等の支援も家族の同意を得て行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考慮しフロアの席を決めたりイベントには全員参加を目標とし、利用者同士が思いやりが持てるよう職員が導いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後はご家族の近況を電話や暑中見舞い・年賀状等で確認している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者からの聞き取りは無理だと決めつけずに普通の会話から探り出している。利用者から傾聴するときはプライバシーに配慮してゆっくりと話ができる環境を作るよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から今までの暮らしの内容や生活歴（一番輝いていた時期）を情報収集し個人ケース記録に残し、アセスメント・ケアプランに繋げている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴を基にその人らしい過ごし方ができる様に支援し、毎日のバイタルチェックで身体の変化を把握し、利用者一人ひとりの生活リズムが作れるよう取り組んでいる。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まずは本人・家族の希望を受け止め、職員や関係者と話し合いを重ねその結果をもとに3ヶ月毎に介護計画書を作成している。そのためには毎日の細やかな観察と記録が必要である。それを職員で取り組んでいる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に日々の様子や気付いたことやケアの実践後の利用者の様子を細かく記入し、職員間で情報の把握に生かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて本人・家族・関係機関の希望でグループホーム以外のサービスを利用できる。家族は必要時には利用者の部屋に泊まることも出来る様、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅より施設に入所され新しい環境の中、ここでいつまでも暮らして行きたいと思って頂く為に地域の中に溶け込めるよう季節ごとの行事に参加したり、また地域の方にボランティアとして舞踊や和太鼓の披露もお願いし、利用者が楽しめるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設としては24時間対応して頂く、主治医はあるが本人や家族から希望があれば、以前からのかかりつけ医や希望される病院へ受診支援をしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態や変化・異常に気付いた時はその都度、施設看護師に報告し、看護師は主治医に相談し適切な対応が受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設での状態を詳しく病院へ情報提供し、施設職員は利用者との関係が薄れないよう交代で面会に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期ケア対応事前指定書を説明し、本人・家族の意向を書面で伺っている。本人・家族の意向を尊重しつつ、施設として対応ができること・できないことをはっきり伝え、双方が納得した上でケアにあたっている。その時が来たら再度、家族・主治医・施設と話し合いを設け、方向性を決め支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設での勉強会や消防署にて普通救命講習を受講し、AEDの使用法や心肺蘇生法を学び、緊急時の対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に火災時の昼夜想定で避難誘導訓練を行っている。地域にも声かけ近隣の参加で消火訓練も同時に行っている。今後は火災時だけではなく、地震や水害時の避難訓練も消防署の指導を受けながら取り組みたい。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を念頭において相手に不快感を与えない対応で人格を尊重し敬意を持って接している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりとした時間の中で日常会話を楽しみながら利用者が答えやすいように問いかかけの仕方を工夫している。自己決定が困難な場合は表情の変化で気持ちを汲み取るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も食事の時間も強制せず、利用者の希望される時間に合わせて支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服や下着等、本人より希望を言われる方は職員と一緒に買い物へ出かけ、意思表示が十分でない方は家族にお願いし、好みのものを用意して頂いている。髪染めを希望される方は好みの色を尋ね、職員が入浴時に対応する等、本人のこだわりが継続できる様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は男女問わず、楽しみにしていることでその楽しみを味わうために定期的にレクを兼ね、お菓子作りやなべ料理を計画して利用者にも作業過程の役割を分担している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の血液検査でカロリー不足には高カロリーゼリーや飲み物を提供し、水分に関しては摂取量をその都度チェック表に記入し、1日の摂取量を確認して少ない方には好みの飲み物を工夫しながら提供する取り組みを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自ら歯磨きをされる方は一部であり、介助は一方的なケアにならないように気を付けている。どうしても清潔が保てない方は訪問歯科のケアや指導を受け清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に時間を決めて誘導支援に取り組んだ結果、リハビリパンツ内に便失禁があった方が誘導を実施することで改善されたことは本人にとって快適な日々を送れることにつながった。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として腸を動かすために歩く運動や水分の摂取に取り組み、本人や家族の希望として薬を使いたくないと言われる方は乳製品やバナナなど、なるべく食べ物で改善できる様支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日できるが利用者の体力等を考慮し、声かけし納得してから入浴してもらっている。拒否が続く時はホットタオルを渡し顔・手足を拭いてもらったり、職員が清拭介助を行って、無理強いはいしない。好みの温度に調整し、男性利用者はゆっくり湯船につかり、髭剃りができるよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し居室の温度調整を行い、疲れやすい方、足がむくみやすい方など休息をとるため、ベッドで休む時間をとるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬を防ぐために利用者に手渡す時は二人の職員で名前・日付を確認し、又、飲み込まれるまでの確認を行っている。日常の服薬で状態の変化等があれば、主治医や調剤薬局に情報提供して今後の治療や服薬調整に生かしている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの方が家事全般は経験されているので声かけしながら職員と一緒に作業をしていくことで自分の役割として張り合いを持つことができている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お盆やお彼岸に仏壇参りに行きたいと希望される方には家族の協力を得ながら日程を調整して職員同行で支援している。又、外食を希望される方には個別支援や全員参加の支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常にお金の所持を希望される方には家族の了解のもと、財布の中に少額入れ本人に渡している。外出時は一人ひとりお金を用意し、本人が好まれるものを手に取り選んで購入されている。家族には事前に了解をもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いたり、利用者から電話をかけたいと希望された時など、施設の電話からかけ、ゆっくり話ができている。又、暑中見舞いや年賀状に利用者の自筆で一言書いて家族に届けている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は迷うことがない様に大きな字でわかりやすく表示している。フロアの壁には季節を感じられるものを利用者と一緒に手作りし掲示している。居室は本人の好みの掲示物や置物を飾り、自分らしい空間にできる様、お手伝いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアより離れた場所に談話コーナーが設置され、ホッとひと息、一人の時間を大事にできる。そこからは隣接する高校や大学の校舎が見え、時には学生たちの元気な声を聞くことができ、少人数で談話できる場所が提供できている。ウッドデッキも同じように利用できていて毎朝、落ち葉をほうきで掃除され一人の時間も大事にされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の好みの部屋作りになるために入所前に使用されていた家具や使い慣れた物を施設でも愛用されている。そうすることで混乱を防ぐことにつながっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を防ぐためにバリアフリーになっている。利用者の他階への移動はエレベーターを利用しているが廊下には手すりを設置しているので歩行リハビリ等に利用している。又、できることの生活リハビリとして食器吹拭きや洗濯物たたみ等を職員と一緒にできる様、支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その日の出勤者が朝、夜勤申し送りの時に唱和することで理念を忘れずに介護に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事の中で大きな行事の時には地域の方にお知らせしたり又、地域の行事（正月にあるさぎっちょなど）に利用者も参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域代表者を交え、地域の情報も出してもらい、皆で意見交換し高齢者が安心して暮らせるよう、施設からもできる限りアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者に当施設の状況、利用者の生活状況、事故の内容などを報告して意見が上げれば改善につなげている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において介護保険課の職員や包括支援センターの職員に参加してもらい、その都度、意見を伺っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の状態を正確に把握した上で事故防止にも取り組みながら身体拘束しないよう利用者の意見を尊重し、工夫した支援に取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉遣いも含めて虐待しないようお互いに注意し合い、必要があれば面接指導を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度の外部研修や施設内の研修にて学び、その時の資料テキストを活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前又は入所当日に管理者・フロア長が契約内容を時間をかけて説明し不明な点があれば丁寧に対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場を利用して利用者・家族からの要望・意見があったことを報告し、業務改善につなげている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア長会議や各フロアの会議を行っており、その場においてオープンに話し合いを行っている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年ごとに自己評価等を実施しており評価結果に基づいて給与面に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員それぞれの長所を活かし、短所は皆でカバーし合うような職場の雰囲気を作っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者・職員の人権を尊重するため、まずは誰にでも平等に接することの大切さを常に話している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の当施設グループの全体研修を行っており又、外部研修を受ける職員もシフトを調整し、容易に受講できる様取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会のグループホーム部会や地域包括ケア会議などを通して意見交換をしている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や不安、今までの生活状況を把握した上で施設での生活に安心が持てるよう入所前から検討している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する苦悩など面接時にしっかり傾聴し、今後の希望を踏まえて支援を提案している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回、面接時に利用者・家族の話を聞き、又、情報提供書を見てアセスメントを行い、ケアプランを作成している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎食、一緒に食事をしてまた、洗濯物干しなどの家事も一緒に行うようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の希望を受け止め、家族での外出・外泊を行ってもらったり、行事の案内をし、一緒に過ごせるよう工夫している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔、育った町などに訪れたり、アルバムや映像など用いて関係が途切れないよう工夫している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすいよう、レクなどの支援を通して楽しみを増やすよう職員が間に入って支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談等があれば、話を伺い応じている。又、年賀状等で近況を尋ね、関係が途切れない様になっている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの希望に添うことは難しいが話は傾聴し職員間での情報は共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の中には断片的に話をされることがあるが少しずつでも話を聞かせてもらうことで日々のケアに役立てている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を持ち寄り、一日一日の状態をできるだけ見逃さないように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの話し合いの内容や家族の希望、医師・薬剤師への相談等を踏まえてケアプラン作成を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録には利用者の表情や言動をありのままに記入し、その場に立ち会っていない職員にも情報を共有して日々のケアに活かしている。記録の内容に関してはもっと必要な事柄を明確に記入することに取り組んでいる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて本人・家族・関係機関の希望でグループホーム以外のサービスは自費にはなるが利用できる。家族は必要時には利用者の部屋に泊まることも出来る様、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔、通っていた理美容店や地元の好きだったパン屋など把握し、希望された時は支援に取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があった時は家族の了解を得て受診し、主治医は24時間体制で応じてくれる。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃と変わった気づきがあれば、職員同士確認し合い、施設看護師に報告している。看護師は状態を見極め、必要であれば主治医に相談し、往診や専門医受診の支持を受けている。。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は苑での暮らし、本人の希望などを代弁して病院関係者に伝え、スムーズに治療ができる様連携している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化・終末期ケア対応事前指定書を説明し、本人・家族の意向を書面で伺っている。本人・家族の意向を尊重しつつ、施設としての対応可能も伝え、双方が納得した上でケアにあたっている。その時が来たら再度、家族・主治医・施設が話し合いを設け、こまめに支援の方向性を決めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当施設の勉強会で「緊急時の対応に関する研修」で職員全員学んでいる。又、消防署の指導にて普通救命講習も受講して緊急時に少しでも落ち着いて対処できる様取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的に火災時の昼夜想定で避難誘導訓練を行っている。地域にも声かけ近隣の参加で消火訓練も同時に行っている。今後は火災時だけではなく、地震や水害時の避難訓練も消防署の指導を受けながら取り組みたい。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人としての尊厳を守り、言葉かけは基本敬語で話すよう心掛け方言も使い分けながら和んでコミュニケーションが取れるよう努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話を楽しみながら利用者が「今、どうしたいのか」を答えやすいように問いかけの仕方を工夫している。自己決定が困難な場合は表情の変化で気持ちを汲み取るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの今までの生活習慣などを把握し、毎日を穏やかに過ごして頂ける様、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧される方には好まれる化粧品や髭剃りを購入したり、今日の洋服を自分で選べるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、薄めの味付けで軟らかめを心がけ、施設で育てたフキや菜の花を揃えたり、梅の塩漬の準備を職員と一緒に楽しんでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを毎食時、摂取量を記入し不足していれば、声かけし提供したり、別の好まれるものを準備し摂取できる様支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立口腔ケアをされる方は一部であり、介助での口腔ケアは一方的なケアにならないように気をつけている。どうしても清潔が保てない方は訪問歯科のケアや指導を受け清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に時間を決めて誘導支援に取り組んでいる。高齢者は便秘の方が多いため、その人その人の排泄パターンを把握し、落ち着かない行動が増えてきた時などは周りに聞こえないよう、トイレ誘導の声かけをし、気持ちよく排泄ができることを支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防として腸を動かすために歩く運動や水分の摂取に取り組み、本人や家族の希望として薬を使いたくないと言われる方は乳製品や食物繊維など、なるべく食べ物で改善できる様支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日できるが利用者の体力等を考慮し、声かけて納得して入浴してもらっている。拒否が続く時はホットタオルを渡し顔・手足を拭いてもらったり、職員が清拭介助を行って、無理強いはいしない。好みの温度に調整し、男性利用者はゆっくり湯船につかり、髭剃りができるよう支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し居室の温度調整や寝具の洗濯をこまめに行い、気持ちよく休めるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・用法や用量など分からない事があれば、調剤薬局に尋ねたりネットで調べたりしている。服薬支援は職員二人で確認し誤薬が無いよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの施設での行事や月1回のフロアでの行事を計画し、利用者一人ひとりに応じた手伝いや役割を持って頂き、職員と一緒に楽しく参加できる様支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の支援は出来ていないが気候が良い時は利用者の健康状態を考慮し、散歩や買い物等の支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族の了解を得た上で少額のお金を渡しており、本人に管理を任せ、買い物する時は自分で支払いされるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望の場合は施設の電話よりかけられ、話したい事を自分の口から伝えられるよう支援している。又、年賀状や暑中見舞いには利用者本人の自筆で一言書いて家族に届けるよう取り組んでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの庭に咲く花などを利用者の目に触れる場所に飾り、季節を感じながら気持ちよく生活できる様工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を一人用、3人用となど準備し、利用者が嫌な思いや窮屈な思いをしないよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の好みの部屋作りになるために入所前に使用されていた家具や使い慣れた物を施設でも愛用されている。そうすることで混乱を防ぐことにつながっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を防ぐためにバリアフリーになっている。利用者の他階への移動はエレベーターを利用しているが廊下には手すりを設置しているので歩行リハビリ等に利用している。又、できることの生活リハビリとして食器吹拭きや洗濯物たたみ等を職員と一緒にできる様、支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない